



青年海外協力隊マレーシア会 13号

「絵を通じての友好」 Friendly Relationship Through Pictures

児童画でマレーシアと日本をつなぎ続けて 30 年・協力から多分野協働へ

認定・埼玉県指定NPO法人メイあさかセンター 代表理事 尾池富美子

はじめに

投稿のご縁を頂きまして御礼申し上げます。青年海外協力隊マレーシア会の中に、マレーシアや日本でお目にかかった方も確か何名かおいでかと存じます。私たちの活動も 30 周年記念の事業を昨年 7 月から今年の 1 月迄マレーシア各地と日本で実施いたしました。

学校の授業で描いた 76 点の作品と、ペナン州の小学校の授業で描かれた作品 30 点を、手から手へ交換したことが契機でした。マレーシア各地へ広がり他に類を見ないオリジナリティーを発揮するプログラムへと発展しました。この貴重なプログラムの燈を消さないためにも、マレーシア会のみなさまにお力添えを賜りたくて書かせて頂いております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 「絵を通じての友好」の始まり・・契機

代表理事の家庭では、義父が認知症になり義母が大きな手術後の回復期に精神的に立ち直れず家族が介護をすることが必然的なように、今日のように介護保険もなくゴールドプランさえもない時代でした。さらに重度一級の身体障害の義弟の自立生活にも関わりながら非常勤公務員として執務していた矢先、プラント輸出の仕事で世界 50 数か国出張してきた夫が、マレーシア駐在の赴任辞令が出ました。当然単身赴任を選びました。その時、家族で決めました。「両国で、多くの方々にお世話にならないと生活が出来ない条件下の家族だから、慣れたらみなさんにお礼を込めて両国をつなぐ活動をしようね。」と！

2. 1987 年始まりました。

朝霞市立朝霞第四小学校の作品(左)とペナン州チュンファ A 国民型中華小学校の初めての交換作品です。



個人的に始めたプログラムでしたが、朝霞市内でも多くの方々が、マレーシアの児童画に接したいという要望が寄せられ、団体を組織して対応。ペナン州でもマレーシア人からの紹介で、すぐ他の 2 校も参加したいという要望が寄せられました。歴史的な

推移の中で、ペナン州は、民族の比率が国の比率と異なり中国系が圧倒的多いということもあり、3 校とも中国系民



族が多い学校でした。1988年10月に、第一回マレーシア児童絵画作品展覧会を朝霞で実施し、駐日マレーシア大使館の後援を頂きました。報告書を提出した際に、当時の駐日大使ダトJ. K カミール閣下より、「マレーシアの三大民族を網羅した作品で、正しくマレーシアを知ってもらうように。」との助言を戴くことから、ペナン州教育局とつながり、セランゴール州ゴンバ地方教育事務所へと広がりました。各地も、多くの人々とのご縁で広がりました。これまでにKLを含めて6州と関わってきました。

3. 各州の推移

ペナン州・・・1987年・・・1989年9校参加・・・1993年中学校も参加・・・1998年州内全330校参加

セランゴール州・1993年・・・ゴンバ・・・ウルセランゴール・・・クアラセランゴール

KL・・・・・・・1998年・・・教育省直轄のプログラムと併行して参加

サバ州・・・2001年・・・2001年から州内キャラバン・今年はコタ・ブルドで実施

ペラ州・・・2003年・・・9つのディストリクトを巡回展

ケダ州・・・2014年・・・試行で展覧会・セミナー&ワークショップと交換

次年度は予算化出来ず継続には至らなかった。



4. 人物交流の推移

作品交換から、双方の国の児童達が「描き手に会いたい！」という声を学校を通じて弊団体に届けてくれたことを契機に1992年から始まりました。まだまだ、マレーシアという国が今のようにみなさんに知られていない時期でした。

段階的な発展

作品交換→一般公開展覧会→人物交流→教師対象セミナー&ワークショップ→(関連諸事業)

1992年 ペナン州 小学生受け入れ	1995年 朝霞から小学生 公募19名引率	2000年 各地から指導主事 と校長6名招待	2003年 ペナン州美術教 ミッション受入れ	2006年 全寮制選抜ラワン 中高等学校受入れ	2007年 ペナン州小学生受 入れ(朝霞市と協働)
2012年 埼玉県高校生公募 マレーシアへ引率	2012年 全寮制選抜ラワン中 高等学校受入れ	2013年 ペナン州小学生受 入れ	2015年12月来日 ラワン中・高校生・教師 &地方教育事務所オ フィッサー	2016年8月 荒川区原中学校 生徒と教師引率	2016年11月 ペナン小学生 受入れ

5. 国際友好賞状及び出版物で証を。

(作品は描き手の手には戻りません。マレー語と日本語で表記された国際友好賞状と作品の写真を学校経由で本人の手に渡されます。大変好評です。常に、大きな事業毎に記録誌を発行しています。

出版社刊行 20周年記念画集 高校生スタディツアー記録



国際友好賞状いろいろ



6. マレーシアでの取り組み・・・2025年教育改革目標到達に貴重な社会資源として信頼され続投を希求されています。

事務所(ブランチ NGO 登録)を持たない弊法人がプログラムを30年も続けられたことは、他の組織にはない条件が整っていたからです。単身赴任をしていた夫は、合弁会社のジェネラルマネージャーとして執務、ブミ

プトラ資本のマレーシアの会社の会長も社長も理解が深く、このプログラムのキーパーソンとして活動に関わることが出来ました。サバ州には長男が住んでいましたので、代表の代行者としてマレー語を駆使しての会議参加や作業を共に担うなど融和して協力的でした。カウンターパートが教育省直轄州教育局や地方教育事務所、州立図書館や図書館公社が対したプログラムだったので、きめ細かな対応が出来ました。30年間で代表は150回以上マレーシアを往復し、サバ州もペラ州も現地人が驚くほどディストリクトを巡回展で行脚しました。30年前には協力型でもあったプログラム運営でしたが、マレーシア側が必要性を認め、次第に予算化し、展覧会や交換会も個性的に取り組むようになりました。ワークショップの運営も熱心に参加されて教室に活かされています。

ペナン小学生来日・朝霞第六小学校受入

7. 日本での取り組み・共生を学びながら

学校の先生方の多忙さが危惧されていますが、このプログラムは国際教育主任の先生が、作品選びや名簿入力・マレーシアの作品展示なども担ってくださいます。その熱心さと弊法人が脆弱なので企業や個人の翻訳家・団体が多面的に協力支援して続いてきました。



8. さいごに

このプログラムで「初めて外国を意識」「図工の時間へ積極参加」「小学生からアジアへの興味を持ち続けて進路に」と報告が届きます。因みにアジア太平洋大学の単位互換のマラヤ大学との交換留学制度の日本から最初の学生は弊法人が小学6年生時にマレーシアへスタディツアーで引率した女子学生でした。

グローバル人材育成にも寄与しながら参りました。ぜひお力添えくださいませ。 mayasaka@mayasaka.net

青年海外協力隊マレーシア会事務局より

メイあさかセンターでは特に埼玉県朝霞市近郊のOB・OGの方で、翻訳・マレーシアへの同行・作品の整理・展覧会の準備などを手伝っていただける方がいらっしゃればと願っております。

青年海外協力隊マレーシア会近畿地区集会開催のお知らせ

マレーシア会では、これまで中部、北海道、九州と地方集会を開催してきました。今回は近畿ブロック役員の西村善継氏のご尽力で近畿地区集会を下記の通り、開催いたします。ぜひご参加ください。

日 時：平成30年9月22日（土）

場 所：JICA 関西（神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 TEL:078-261-0341）

プログラム：第一部 4時～5時30分

「マレーシアの最新状況とロングステイ」

講師：宇田耕三氏（46年3次隊 獣医師 フィリピン）

現在、ご夫婦でマレーシアにロングステイ中（3年）、政権交代後のマレーシアの最新情報とロングステイについてお話しいたします。

第二部 6時～7時30分

JICA 関西内食堂にて懇親会

懇親会参加の方は会食費(3,000円程度を予定)をいただきます。

申し込み：マレーシア会まで、メール・電話でお申し込みください。



ボランティア活動の現場から

大内 広明（2017年度2次隊 電気・電子機器）

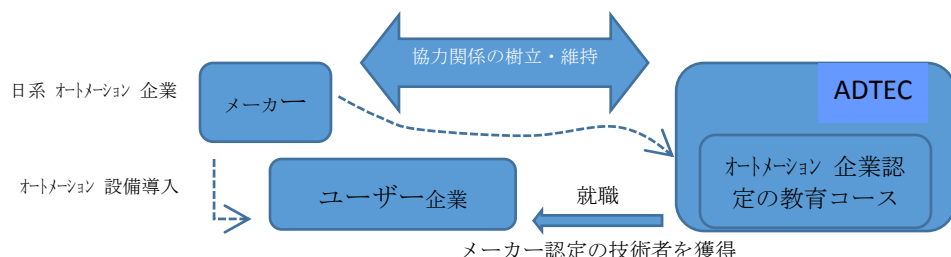
マレーシアに来てから、あっという間に半年が過ぎました。今回は2度目のシニア海外ボランティアなので、何につけても初めての時と比べてしまいます。前の任地はスペイン語圏で、コミュニケーションが上手く取れないストレスもあり、体調を崩しつつ活動計画を書きながら「やっと5ヶ月経過。まだ19ヶ月も残っている・・・」という調子でした。今回の活動言語は英語なので、赴任先の高等技術訓練センター（ADTEC, Advanced Technology Training Centre）の先生方と問題なく意思疎通ができる事がとてもありがたいです。



私は電気・電子機器のエンジニアとして派遣されました。赴任先のADTECは、日本でいえば高校卒業後に通う公立の技術系職業訓練専門学校です。自動車生産コース、航空エンジン整備コース、エアコン設備コース等・各種のコースが有りますが、私に与えられた活動要請内容は、最近に編成された「自動制御とロボットコース」のカリキュラム内容の見直し、ならびに現地の日系企業との連携強化です。

着任後すぐに現在のカリキュラムを調べましたが、授業内容に変更や付け加えるべき所は見当たらず、実験用の設備・機材も十分に揃っています。また各種の団体が主催するロボット競技会にも出場できるように学生を指導できているので、先生方の知識・能力という面でも心配はないように見えました。それでも先生方に多少なりとも私の経験からお役に立てたらと「電子回路の信頼性を高める設計—Derating」というテーマで講義をする事を計画しています。先生方が出席し易いように、学期の切れ目で授業が無い時期を使って行う予定です。学校の悩みは、企業との関係強化が上手く進んでいない事ようです。学生をインターンシップや就職先として引き受けてくれる企業を増やそうとして、もう一方では学校施設や訓練コースを企業の従業員の再訓練の場として、また企業の特別行事の場として活用してもらう事で、企業との関係強化を目指していますが、企業に訪問してもキーマンとの面会ができず、売込みが進まないのが現状と言っています。

日系企業側の学校に対する不満も、聞こえてきます。学校での「就職フェア」に出展しても学生の獲得に至らず、学生は企業に何を求めているのか分からない。たまたま獲得できた新人も定着せず、少しでも収入アップになる仕事があれば容易に転職してしまう、と嘆いています。



ある日系企業が他のADTECと協力して前記の問題を解決している例を知り、これを我が校にも導入しようと校長に提案しました。その企業の監修する訓練コースを開設し、そのコ

ース修了者には企業の名前で「技術認定証」を交付します。その企業のシステムを導入したユーザー企業は、システム保守要員として認定証で技術が保証されたADTEC卒業生を安心して雇用します。卒業生は「認定証」の価値を知る別企業へ転職する事もできるし、企業は再度「認定証保持者」を雇用すれば教育に時間とコストをかけずに済みます。さて、うまく行くでしょうか？

（注：協力隊の隊次は2017年から西暦になっています）

マレーシア教育省職員 10 名と情報交換・交流会 開催！

武藤 正浩 （平成 24-3 ソーシャルワーカー）

JICA では今年度から 3 か年に渡り毎年 1 回各 1 か月マレーシアから 10 名を横浜に招聘し、障害者支援分野でマレーシア派遣中のボランティア事業と連携することを意図した研修事業が企画実施されています。

今回は、第 1 弾として、2 月 18 日から 3 月 17 日まで、マレーシア教育省職員（教育省特別支援教育課・州事務所）および特別支援学校教員からの 10 名がマレーシアでの特別支援教育に役立てるべく、特別支援学校等の見学や日本の障害児教育について学ぶプログラムに参加しました。

研修の折り返し地点にあたる 3 月 3 日（土）に、マレーシアボランティア有志が協力して、JICA 横浜にて情報交換・交流会を行いました。

ご案内が直前になってしまったにもかかわらず、京都や大阪から来てくださった方もいました。情報交換会には 10 名、交流会には 17 名の OV が参加してくださいました。

情報交換会は、2015 年 9 月まで約 4 年間 JICA マレーシア事務所次長をされていた JICA 横浜国際センター研修業務課の大久保恭子課長のあいさつでスタート。マレーシア研修生と OV の自己紹



介の後、斎藤祐子さん、加藤佳恵さん、植山明日香さん、井上早苗さん、奥村由夏さんからマレーシアでの障害児教育分野活動報告をしていただきました。その後、日本の重度重複障害児への教育体制や教師の研修制度、特別支援教育の教師の資格制度、生徒と先生の比率など、マレーシア研修生の皆さんから熱心な質問があり、現在、協力隊事務局の障害者支援分野での技術顧問をなさっている荒証文さんを中心に回答いただき、あっという間の 2 時間でした。

交流会は、マレーシアスタイルの軽食と飲み物で、再会を喜んだり、新たな友情を育んだり、また皆で「幸せなら手をたたこう」マレーシア版、日本版を歌って、踊って？盛り上がりました。

夜はアラビア料理店に場所を移し、現地調整員の Noorul さんを囲んで、赤ちゃん、子どもさん含めて 22 名でおいしい料理を楽しみました。ベリーダンス鑑賞&ダンス体験！ダンサー顔負けの人あり、盆踊りになる人あり・・・、Noorul さんもエクササイズ！



ご協力くださった皆さん、本当にありがとうございました。

この企画は今後 2 回続きますので、皆様のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

（写真は一前島明さん撮影）

元サバ州経済企画局 JICA 事業担当官の来日

竹前雅子（昭和 62 年度 1 次隊、司書）

私は、1987 年 7 月、司書としてサバ州経済企画局（以下、EPU）資料室に派遣されました。当時、EPU は JICA のカウンタート省庁で、赴任時に表敬訪問したことを、今も覚えています。

サバ州の EPU で協力隊事業・JICA 事業を担当していたのが、直属の上司でもあったマリー・ナシオ氏でした。マリー氏は協力隊員や専門家、事務所職員とも積極的に交流して下さった方でした。そのマリー氏と SNS（Facebook）を通じて再会を果たしたのは、5 年ほど前のことでした。今では、サバ州に派遣された協力隊関係者を中心に、サバ州の別名を冠した「Land Below the Wind」というグループが SNS 上にできています。

マリー氏の最初の来日は、2016 年の 11 月のことで、奥様と二人で来日され、東京近郊を観光されました。この時は数名の JICA 関係者にお声かけさせていただき、市ヶ谷のハラル料理レストランで会食会を行いました。日本国内にいても、なかなかお目にかかれない方々と再会でき、楽しいひと時となりました。2 回目の来日となった 2018 年 2 月には、ご家族 5 人で来日され、冬の日本を楽しまれました。大雪の白川郷から富山に移動できず、名古屋経由で移動したマリーさんご一家と長野駅で待ち合わせし、スノーモンキー（温泉に入る野生のサル）として外国人観光客に大人気の「地獄谷野猿公苑」にお連れしました。

東京滞在中に、マリーさんを囲む会を企画いたしました。今回はご家族に JICA 事業を紹介するため、JICA 地球ひろばで歓迎会を催したいと考え、マレーシア会に相談させていただき、2 月 11 日に歓迎会を催すことができました次第です。当日は総勢 10 名の JICA・JOCV 関係者が参集してくださいました。地球ひろば併設の J カフェのハラルフード弁当をいただきながら、マレーシアの思い出話に花が咲きました。

会の案内をマレーシア会のメールで周知いただいたことで、当日参加できない方々からも、なつかしいお便りをいただくことができました。今回の催しがきっかけで、旧交を温めることができたのも、良い機会となりました。

マリーさんは、マレーシア語も英語もままならない協力隊員の活動を、いつも暖かく見守ってくださいました。JICA 事業がマレーシアに受け入れられ、両国が良い関係を築いてきたからこそ、三十年のブランクも感じずに、交流を再開することができたのだと思います。

今後もマリーさんはじめマレーシアの方々と、末永く、交流を続けていければと考えています。また、人とつながることの大切さを痛感する昨今、隊次や職種を超えて、折りに触れて、マレーシア会の皆様との交流を今後も持たせていただければと思います。



原稿募集！ 会報への原稿は随時募集しております。隊員時代の活動報告、帰国後の状況報告、地域での活動などなど、事務局までお寄せください。お待ちしております。

マレーシア会会報記事索引 (1号～10号)

号	タイトル	筆者	隊次・所属
1号	マレーシア会設立総会開催報告		2011年9月18日の設立総会報告
2号	どこへ行くボルネオの自然	白山 肇	昭和55年1次 マレーシア会会長
	RINDU PADA マレーシア	永江 勉	昭和55年2次 元 JICA 事務所長
	また春は来る！何度でも来る！	井上 昌夫	昭和53年1次
	第1回マレーシア会 KL 旅行記	高橋 明美	昭和55年1次
3号	クチンでのたのしみ	新井 卓治	日本マレーシア協会専務理事
	障害者スポーツとオリンピック	峰村 史世	平成9年2次
	帰国隊員報告会開催		平成22年1次浦井・捧 OG の報告
	Jalan-Jalan di TOKYO！！	斎藤 まり	平成22年1次
	マレーシアとのつながり	金子 博	昭和53年2次
4号	プチ同窓会と3.11	平澤 昭男	元マレーシア駐在員
	異国マレーシアでの子育て体験記	松林 裕子	元ジスコ・ボルネオ旅行社勤務
	マレーシアに着任して	今川 俊彦	平成24年3次
5号	変化するマレーシアの影絵芝居ワヤン・クリッ	上原 亜季	ムティアラ・アーツ・プロダクション
	NPO 法人「SV 経験を活かす会」のご紹介	鈴木 秀秋	SV 経験を活かす会理事
	ペナン島でのロングステイ	小林 広	昭和58年2次
	アジアの小娘がアラブの春を通りぬけ、 ヨーロッパのマダムになる・・・という人生	平賀 牧恵	平成1年1次
	マレーシア会第2回総会報告・ロゴマーク総選挙		2013年9月22日の第2回総会報告
6号	マレーシアの民族の証である、マレーシアご飯	古川 音	マレーシアごはんの会代表
	サバの9日間	伊藤 聡一郎	協力隊を育てる会事業部長
	あれから30年	石井 範子	昭和58年1次
	ヨルダンで再びボランティア三昧です	守永 大策	平成22年2次
	サバの三人娘、1/3は今	志賀 典子	昭和55年1次
7号	東南アジアは人類文明発祥の地＝エデンの園だった！	草野 孝久	元生物多様性生態系保全チーフアドバイザー
	一東日本大震災から3年半が過ぎましたー	勝俣 祐二	昭和59年3次
	作業療法士の足あと～ボランティア活動報告～	原 早恵子	平成23年4次
	カンポン昔話	笹森 栄	平成3年3次
	サモアから	坂本 良子	昭和55年1次
8号	JOCV マレーシア 昭和40年度1次隊(初代)	草野 忠征	昭和40年1次、元マレーシア駐在員
	協力隊活動とその後	石本 馨	平成7年1次
	マラッカでの活動報告	中山 天志	平成24年3次
	協力隊事業発足50周年記念		50周年記念事業の紹介・豆知識
	初めての地区集会開催される(名古屋)		なごや地球ひろばで開催
9号	マレーシア会第3回総会(KL)開催報告・参加者の声	白山 肇	昭和55年1次 マレーシア会会長
	青年海外協力隊マレーシア派遣の50年(前編)		1965年～1987年までの年表
	「胡椒の丸呑み」と5カ国、30年のコショウ人生	後藤 隆郎	昭和40年1次
	ボランティア総会を開催しました		現役隊員からのレポート
10号	ボルネオへの恩返しプロジェクト	坂東 元	旭山動物園園長
	マレーシアにおける障害者福祉関係のボランティア派遣の変遷	四方 照美	平成6年1次
	現地における3Rなどリサイクル推進活動報告	小手川 雄樹	平成26年4次
	現役ボランティア便り		現役隊員からのレポート
	青年海外協力隊マレーシア派遣の50年(後編)		1988年～2016年までの年表
	「北海道集会」開催！		北大学術交流会館で開催

(注) 各号最終頁の情報コーナーは省略しています。また文字数によって文字のポイントを小さくさせていただきました。

これまでの会報は国際協力サロンのホームページに掲載しています。 <http://ics-together.com/jocvmalaysia.htm>

協力隊まつり 2018 出展

今年も協力隊まつり 2018 (4月21日、4月22日、JICA 地球ひろば) に出展致しました。今年は二日間とも晴天に恵まれ多くの来場がありました。(2013 名) 例年に比べ若い人の来場が目立ちました。

今回は現在マレーシアで活躍中の協力隊員や帰国直後の協力隊員 OB の活動の写真を展示致しました。

また当会のサポートで高校生のボルネオスタディツアーの報告を兼ねたセミナーを行いました。大変充実した内容でした。また二日間お手伝いいただいた方々、ありがとうございました。



弓場 OB おめでとうございます！

当会九州ブロック役員でもある弓場秋信 OB (47. 2) が旭日双光章を受章されました。1992 年から今年の 3 月まで JICA 九州にて帰国隊員に進路相談を行うカウンセラー(鹿児島県担当)として活躍されました。帰国後に鹿児島県で貿易会社を創業し、現在では(公社)鹿児島県貿易協会の副会長としても活躍中です。今回、長年の功績が評価され企業の経営者など社会のさまざまな分野で顕著な功績があった方に贈られる「旭日双光章」を受章されました。赴任時のご接見以来 46 年ぶりに皇居で拝謁し、感無量だったそうです。おめでとうございます。

マレー語を復習したい方にご紹介

昭和 62 年 2 次隊の北井佐枝子さんが、東外大の野元裕樹先生の文法説明・お役立ち情報を加えた『ポータブル日マレー英、マレー日英辞典』を三修社から出版されています。マレー語の勉強にお役立てください。

https://www.sanshusha.co.jp/np/details.do?goods_id=4296 詳しくは上記 URL をご覧ください。

寄付のお礼・・・ありがとうございました！

花牟禮亜聖、大西益吉郎両氏より

合計 1 万 5000 円のご寄付をいただきました。活動費として、大切に使用させていただきます。なお、寄付は随時受け付けています。よろしくお願いいたします。

振り込み先：

郵便局記号：10140 番号 51611341

(郵便局外から振り込みの場合：店番 018、
普通口座 5161134 です)

口座名義人：青年海外協力隊マレーシア会
代表 白山 肇

訃報

村山 要一さん(昭和 40-1) 2017 年 10 月

牧野 嘉弘さん(昭和 54-4) 2018 年 1 月

大変残念です。これまでの活動に敬意を表するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

事務局からお願い：住所、メールアドレスを変更された時は下記連絡先までお知らせください。

マレーシア会は国際協力サロン内に事務局を置きます。なお、この会報は青年海外協力隊マレーシア会会員と 2010 年の青年海外協力隊 OB/OG 会出席者に E メールもしくは郵送の形でお送りしています。配信を希望されない方はご連絡ください。また、会員は現在 550 余名ですが、まだ、会員登録されていない方には、是非マレーシア会のことお知らせください。

発行 青年海外協力隊マレーシア会

会長 白山肇

162-8433

東京都新宿区市ヶ谷本村町 10-5

JICA 地球ひろば メールボックス 51

TEL：090-7186-1065 (国際協力サロン)

MAIL：malaysia@ics-together.com

URL：http://ics-together.com/jocvmalaysia.htm

2018 年 6 月 30 日発行